

甲斐国現在人別調 (かいのくに げんざい にんべつしらべ)

日本の国勢調査の原型は 1879(明治 12)年、現在の山梨県で行われた「甲斐国現在人別調」といわれている。

それ以前の人口調査は戸籍上の人を実地点検する「戸口調査(ここうちょうさ)」であった。太政官正院政表課で統計業務を統括していた杉亨二は、近代的な調査票(家別表)を用いた現住人口の全国的な調査を構想しており、具体的な実施方法、調査の問題点、調査経費等の大体の目途を知るための予備調査が行われることになったのである。

山梨県が選ばれた理由は、次の 3 点とされる。

- 1) 人口の規模が適当である
- 2) 管内の人口の移動が比較的少ない
- 3) 東京に近く指導、連絡等が便利である

調査対象は明治 12 年 12 月 31 日午後 12 時現在とされた。

調査事項は姓名、家主及家族(続柄)、男女、身上ノ有様(配偶関係)、年齢、生国、宗旨、職業、啞聾盲、住家となっている。職業は「針仕事」「木綿糸取」などかなり細かく分類されていた。

家別表は 11 万枚用意された。2,000 人の調査員が 1 人につき 1 日平均 39 軒を調査した。

調査結果は 1882(明治 15)年に刊行された。それによると「甲斐国現在人数」は 397,416 人である。

その後、全国調査実現までには、かなり時間がかかった。1902(明治 35)年の「国勢調査ニ関スル法律」で第一回の国勢調査は 1905(明治 38)年と定められたが延期となり、実際に行われたのは 1920(大正 9)年となった。

社会科学統計情報研究センター所蔵

甲斐国現在人別調 / 統計院編纂 統計院 1882 請求記号 : 【D42J345:151:1】

「日本近代統計の祖」 杉 亨二 (すぎ こうじ)

1828(文政 11)年-1917(大正 6)年

肥前国長崎（現在の長崎県長崎市）で生まれる。18歳で大村藩医、村田徹斎の書生となり、その後大坂で緒方洪庵、江戸で杉田成卿門下として蘭学を学んだ。1853(嘉永 6)年に勝海舟と知り合い、その私塾長となる。

1860(万延元)年に江戸幕府の蕃書調所（ばんしょしらべしょ：後の「開成所」）教授手伝、1864(元治元)年には開成所教授となり、蘭書翻訳に関わる中で統計学への関心を深めた。

明治維新後は静岡藩に仕え、1869(明治 2)年には「駿河国人別調（するがのくににんべつしらべ）」を実施したが、上層部の反対で途中で終わった。

1871(明治 4)年太政官正院政表課大主記（現在の総務省統計局長にあたる）を命じられ、ここで近代日本初の総合統計書となる「日本政表」の編成を行う。

1879(明治 12)年に日本における国勢調査の先駆となる「甲斐国現在人別調」を実施した。

1885(明治 18)年統計院大書記官を最後に官職を辞し、以後も統計の普及に努め、国勢調査実施のために尽力した。

参考文献（社会科学統計情報研究センター所蔵） 【請求記号】

- ・ [寸多] [知寸] [知久] / 杉亨二[講述]；横山雅男[記] 日本統計協会 1980 【D11:Su32】
- ・ 杉亨二自叙傳：完全復刻 日本統計協会 2005 【D3211:Su32】
- ・ 杉亨二先生小伝 / 杉亨二先生顕彰会編 杉亨二先生顕彰会 1966 【D3211:Su32-2】
- ・ 福沢諭吉と杉亨二：黎明期日本の統計外史的管見・随想：対照略年譜 / 安藤鎮正著 安藤鎮正 1991 【D3211:F85】
- ・ 杉亨二伝 / 加地成雄著 葵書房 1960 【D3211:Su32-1】